



明日へつなげたい。
豊潤な自然のめぐみと
ぬくもりある人の営み。

■町名の由来

アイヌ語の「シケルベ」が町名の由来。「シケルベ」とは「キハダ(別名シコロ)のある所」の意で、イナウ(神祀る木幣)・薬用・染料等に使う貴重な木であるキハダが多い事からそう呼ばれ、後に転訛して「鹿部」となりました。

■位置と面積

鹿部町は北緯42度02分東経140度49分に位置し、噴火湾を臨み、北海道駒ヶ岳の麓に広がる漁業の町です。東西16.5km。南北19km。面積110.63平方km。駒ヶ岳山頂を境に七飯町・森町、横津岳山頂を境に函館市・七飯町と接します。

■町章の由来

外周の4つの「力」は「4力」、すなわち鹿部の「鹿」を表し、中心は昆布と鹿の角と温泉をシンボライズしたもので、町民の和と町の発展の願いが込められています。



観光キャラクター



カールス君



いずみちゃん



たらずきんちゃん



町の木 ナナカマド



町の花 ツツジ

Contents 鹿部町勢要覧・目次

第1章

町のなりわい、《鹿部の産業》

漁業	5
温泉	7
食と観光	9

第2章

ここがふるさと 《町の暮らし》

行政の拠点・庁舎	13
防災	15
子育て	17
福祉	19
町政	21

Greeting 発刊にあたって

鹿部町は、北海道の南端渡島半島の東部に位置し、秀麗北海道駒ヶ岳を背に洋々たる太平洋に面した噴火湾の出入り口にある、気候温暖で全国でも数少ない間歇泉のある温泉に恵まれた土地です。

元和元年(1615年)に南部大洞から司馬宇兵衛氏が優良昆布採取のため移住したのが開町の基であり、その後、明治12年(1879年)戸長役場が設置され、名実共に自治体としての歴史が始まり、昭和58年12月1日には、町制を施行しました。

開村以来、噴火湾という豊かな漁場に恵まれ、漁業と新鮮な魚介類を原料とした水産加工業を主な産業として発展を遂げて参りました。

この、水産業をとりまく昨今の状況は、大変厳しい状況が続いておりますが、「つくり、まもり、育てる漁業」への挑戦や生産者から消費者までが顔の見える経済やエネルギーが近隣地域で巡る「地域循環型社会」や地域で支え合う「地域共生型社会」の構築を目指し、道の駅を拠点とした、食と観光、また、ふるさと納税の推進などによる持続可能なまちづくりを進めております。

また、世界情勢が混沌する中、地方自治体の在り方も大きく変化して参りました。デジタル化やカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現など、次の時代に何を残し、何を残さないのか、私たちの責任において未来を築いていかなければなりません。

「進むべき道は町民皆さま方の中にある」を基本姿勢として、各世代の出番を創出し、対話による小さな想いや気づきを大切に共に考え、共に行動し「心豊かな笑顔あふれ光り輝く、日本一魅力ある、日本一行ってみたい住んでみたい漁師町」を目指して参ります。

本書は、こうした町勢の現状と今後の姿勢をご紹介しますので、当町を知っていただくうえで、ご利用いただければ幸いです。

鹿部町長 盛田 昌彦
もりた あきひこ

